

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070102441		
法人名	社会福祉法人 河西福祉会		
事業所名	グループホームぶすぶす		
所在地	和歌山県和歌山市松江東1丁目7-25 (電話) 073-454-8900		
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成20年12月17日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建て	3 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	実費 円	昼食 560 円
	夕食	560 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.8 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河西田村病院、井上病院、さわもと歯科医院、松本メンタルクリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者、職員共に利用者一人ひとりを把握し、利用者から調理方法等、教えて頂いたり、気づかされたりし、信頼関係が築かれている。施設の窓からは緑地帯が望め、中庭には桜の大木が春には花見、秋には紅葉と利用者を楽しませている。玄関の前には、畑、近くには神社や緑地公園、商店等もあり、散歩や買い物が楽しめる環境にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価については、推進会議でも検討し改善に向けて取組んでいる。地域との付き合い、(老人会)シルバー会員の小学生の下校時の見守り、声かけ隊に、利用者も協力を計画中である。運営推進会議には、地域の代表として民生委員が参加される事になった。市町村との連携についても前向きに取組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員が評価したものを、皆で話し合い管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーに地域の代表として民生委員の参加が得られ、神社の祭りへの参加、ボランティアの協力を得て行事を実施する事等、意見が出され検討中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見苦情相談等については、相談窓口を設けている。その他、運営推進会議に家族代表も参加し、また「ぶすぶすだより」を毎月発行して家族に送り、意見等出してもらえるよう取組んでいる。出された意見を運営に反映できるよう考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の夏祭りや運動会には地域の人々や小学生の参加があり、小学校の運動会には利用者也参加している。老人会との交流については小学生の下校時の見守り声かけに利用者も協力を計画中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がやすらぐ心地よい居場所の提供、不用意に手を差し伸べない、思いやり、見守る優しさ、互いにゆったり楽しく活気ある暮らし、環境の提供、個の尊重と、最後まで社会性を求め続ける援助という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は施設の目に付きやすいところに掲示し、職員は、毎朝の申し送り時に、理念を唱和し共有し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の夏祭りや運動会には地域の人々や、小学生の参加もあり、幼稚園との交流も実施している。また、小学校の運動会には、利用者が参加して交流している。小学生の下校時の見守りにシルバー会員(老人会)との合流を計画中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員がそれぞれ評価したものをもとに、話し合い管理者がまとめた。前回の外部評価については、推進会議でも検討し、改善にむけて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに地域の代表として民生委員の参加が得られ、神社の祭りへの参加の提案、ボランティアの協力等、積極的な意見が出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の疑義等については、市の担当者に問い合わせをしている。包括支援センターとは、連絡を密にし協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、状況については毎月発行している「ぷすぷすだより」に個人別に記入して報告している。また面会時等にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の相談や苦情の窓口を設けていて、玄関にも表示している。運営推進会議へも家族の参加を得ているので、意見等出してもらえる機会となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は極力押さえている。前1年間には、退職も移動もなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には専任の講師が居り、新任職員は、援助、技術、認知症の研修を受けている。その他法人内研修を受けたり、県グループホーム連絡会の研修会にも交代で参加しており、研修後、内容を報告し他の職員も共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会の研修会に参加して、同業者との交流を行い情報を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学してもらったり、職員が自宅に出向いたりして馴染んでもらうようにしている。特養や他の施設から直接入所のこともあり、落ち着くまでに家族と一緒に過ごして貰ったり、泊まってもらうなどして、施設に慣れてもらえるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の味付けを教えて貰ったり、他に気づかされることも多々あり、お互いの心の支えとなり信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態に合わせて、言葉や表情から意向の把握に努めている。また、家族からも、情報を得ようとしている。センター方式にも徐々に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を聞き、全職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～4ヶ月に一度、見直しを行っている。また、本人の状態に変化があれば、その都度関係者で話し合い、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院と医療連携体制をとり、施設の医師、看護師が、ホームの居室にて診療を行う等、身体の異常時にも対応できる体制にあり、また、家族の要望に応じ病院への移送サービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と十分相談し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときは、施設でも対応できるように、職員は研修を受け体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者の人格を尊重し、誇りを傷つけないよう、声掛けには気をつけている。記録等は職員の部屋で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切にして、デイサービスに参加したり、特養入所者に会いに行ったり、散歩を兼ねて朝食の買い物に出かけたりと、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の保存や調理を共にしたり、盛りつけ等も工夫している。また、散歩を兼ねて食材を買いに行ったり、ホームの庭で作った野菜等も食卓に並ぶ等、食事を楽しむ支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤を入れる等、一人ひとりのタイミングに合わせて工夫し、支援している。入浴は主に午後、本人の意志を尊重し行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、洗濯物干し、料理等、本人の意に沿った支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じて、近く買い物に行ったり、施設内の体操やレクリエーションに職員と共に参加する等、一人ひとりの希望に沿い支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみホーム玄関の鍵は掛けているが居室は施錠しない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年1回防災訓練を実施している。また、災害時には地域と連携できるよ協力関係が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士によりカロリー計算され提供されている。水分量、食事量は一人ひとりの摂取量記録表にて把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レイアウトは家族の意志も聞き、ゆったり出来るよう考え、空間づくりを工夫している。窓辺より菜園が眺められるよう、ソファも置かれ心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人等の持ち物を考慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。家族と本人に工夫して頂くようにしている。		